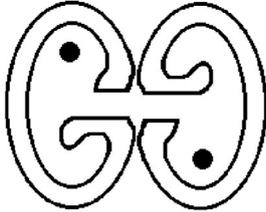


日本双生児研究学会ニュースレター

《第 67 号》

Newsletter of Japan Society for Twin Studies

2019 年 12 月発行



目 次

- ・「大木秀一さんを悼む」 2
- ・日本双生児研究学会第 34 回学術講演会 4
プログラムのご案内 2020 年 1 月 11 日 (土) 開催
- ・学会事務局の転移のお知らせ 8

編集後記

会員募集のお知らせ

入会を希望される方は郵便振替用紙に口座番号 (00910-2-253840)、加入者名 (日本双生児研究学会) をご記入の上、年会費 (3,000 円) をご送金下さい。また、通信欄に所属・所属の住所・電話番号・FAX 番号・E-mail 等をお書き添え下さい。

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-7 大阪大学大学院医学系研究科
附属ツインリサーチセンター内 日本双生児研究学会事務局 (本多智佳)

学会ホームページアドレス <https://jsts.jp.net/>



「大木秀一さんを悼む」

安藤寿康

本学会の最も大切な会員であり、わが国の双生児研究に多大な貢献を成し遂げた大木秀一さんが、こんなにも若くして亡くなったことには、本学会の誰もが驚き、深い悲しみに沈んでいることと思います。私も大木さんとは長年研究活動を共にし、見届け続け、個人的な思い出も少なくありません。ささやかではありますが、彼との思い出を振り返って、故人の御霊に想いを至したいと思います。

大木さんは、歳は私より若干若いのですが、この学会では先輩に当たり、私が1990年ごろに本学会に関わりだしたときには、双生児研究に関する数多くの業績を発表していて、私にとっては重鎮でした。なにしろ彼が浅香昭雄先生と共に出された質問紙による卵性診断の業績(大木・山田・浅香, 1991; Ooki & Asaka, 2004)は、わが国のみならず国際的にも、今に至るまでひとつの標準的手法として名だたるものでしたし、東京大学附属での調査研究の中心人物として、双生児研究のAからZまでを熟知した、それはそれは「怖い」人でした。双生児学会には、もう一人「それはそれは怖い」井上英二先生がいらっしゃり、この二人の存在は、本学会にとって、わが国の双生児研究の歴史と国際的プレゼンスにとって、そしてささやかながらも私の研究人生にとっても、常に思い返されるべき記念碑的な存在といわざるを得ません。

大木さんとの初めての共同の仕事は、ロバート・プロミンの行動遺伝学の紹介本”Nature and nurture: An introduction to human behavioral genetics”(1990)でした。著者から翻訳の口約束を取り付けたのが1993年のオーストラリア・シドニーでの行動遺伝学会、それは私にとって初めての海外での国際学会でしたが、バンケットの席で大木さんとプロミンの隣席を陣取り、カンガルーのシチューを食べながら、あなたの本を二人で翻訳させてほしいとお願いしたのでした。もちろん快諾を得てやがて分担で翻訳したものを培風館から1994年に出版した(『遺伝と環境—人間行動遺伝学入門』)をしたわけですが、この行動遺伝学の泰斗に初めて直接接する機会を得て、ふたりでやたらに興奮しながら、シドニーのロックス界隈を歩いた思い出が残っています。

大木さんとの思い出は、思い返すとこのように海外での学会のときのほうが、日本での思い出よりも圧倒的に多かった気がします。

1999年のバンクーバーでの行動遺伝学会では、私が借りたキッチン付のホテルに、大木夫妻(ちなみにお二人の結婚の保証人にさせていただきました)がたくさんシーフードを持ち込んできてくれ、料理の名手である奥様の圭子さんの手料理を食べながら、遅くまで日本の双生児研究の状況の国際的遅れへの不満とこれからの夢を語り明かしました。大木さんとの歓談は、これも思い返すとそのほとんどが、国際学会での刺激に触発されて、日本の双生児研究をこの国際情勢の中でどのように盛り立ていくかをめぐってのものでした。そしていつもおいしい料理つきでもありました。2003年に私がコロラド大学行動遺伝学研究所に留学していたときも、二人はそろってボウルダーのわが家をたずねてきてくれ、ロッキー国立公園へのドライブの楽しい思い出を残してくれました。ロッキーの自然の中で羽を伸ばす大木さんは、研究の話をするときの真剣な顔

つきとはうって変わって、まさに子どものような無邪気さでした。そう、あくまでも理論を突き詰める研究者としての彼の顔しか知らない、なんと厳しい近寄りがない人なのかと恐れをなしてしまいそうなのですが、あの天真爛漫な笑顔を知っている人は、誰もが彼を愛さずにいられない人物だったことを思い出すはずです。

大木さんの、そうした柔硬の二面性に研究者として直面し、ある意味で研究者として「対決」されたのが、2003年に大木さんと、野中浩一先生、加藤則子先生とで着手した「首都圏ふたごプロジェクト(ToTCoP)」でした。これはJST(科学技術振興機構)の「脳科学と教育」プロジェクトの公募研究として採択された、わが国の双生児研究史においても例を見ない大型双生児研究プロジェクトで、そのプロジェクトのなりゆき自体をここで語ることはとても紙面が許さないほどの大規模な調査研究でした。大木さんと長年の間話し合いながら思い描いてきた国際的水準の双生児研究が、これによって実現できるという意気込みで、メンバーの誰もがそれぞれに双生児研究者として蓄えてきた知識と経験を総結集したプロジェクトだったといえるでしょう。

ここで強く認識させられたのが、大木さんの筋金入りの疫学者として研究に望む厳しい学術的姿勢でした。千数百組の双生児家族を対象として、三カ月おきの質問紙調査に加えて、家庭訪問も個別に実施して行動観察などを行うという、膨大な作業量を自らに課す調査プロジェクトを、みんなで相談しながら短期間の間で設計しなければなりません。それは研究者冥利に尽きる経験であったと同時に、そこではしばしば私と大木さんの意見が対立しました。人間の心や行動や健康の形成要因の因果関係を、遺伝要因にまでさかのぼって明らかにしようとする行動遺伝学としての双生児研究は、社会疫学でもあります。倫理的に実験統制の難しい人間を対象とした因果関係の探求を社会調査できちんとするためには、社会疫学の満たさねばならない統計学的な調査条件を満たす必要が、理論的にはあるのですが、現実に行おうとするとなかなかそれを満たすことが難しい。その狭間で、生来アバウトな性格の私と、科学的に厳密であろうとする大木さんとで、どこまでちゃんとやるかの基準のズレがぶつかりました。いや、ぶつかったと感じたのは私側だけかもしれません。大木さんは常に理論的に冷静で超然としています。理論的に正しくとも現実的にはむずかしいじゃないかとイラつくのは一方的に私だったようだったと、いま思い出しながら苦笑せざるを得ません。そのやりとりを、圭子さんのデザインしてくれた”ToTCoP”のかわいい緑のお豆ちゃんのロゴがみつめているという構図も、実に懐かしい思い出です。

大木さんとは、双生児学会の「永年幹事」として、ニュースレター作りや選挙管理委員会の仕事など、文字通り手作りの仕事を最後の最後までいっしょにしてきました。大木さんの片腕とも言える有能な秘書の大間さんの協力もあって、この学会の必要な情報と手続きは着実に継承され蓄積されてきました。大木さんの遺産は、その学術的業績以外にも、この学会の暗黙のモラルのなかに染み付いているような気がします。その意味で、大木さんの存在はこの学会が続く限り、そして日本の双生児研究が続く限り、ずっと生き続けることでしょう。

大木秀一氏のご冥福を心よりお祈りいたします。

<日本双生児研究学会 第34回学術講演会のご案内>

大会長：志村恵（金沢大学）

【日時】

☆ 2020年1月11日（土）10時00分～17時00分

【会場】（後述のマップをご参照ください）

☆ メイン会場：石川県政記念しいのき迎賓館ガーデンルーム（2階）

☆ 幹事会場：石川四校記念館（隣の建物）多目的利用室1

【開場・受付】

☆ 9:30より会場前にて受付開始します。

【参加費】 いずれも、受付時にお支払いください。

☆ 会員・一般 2000円、多胎家庭 500円（資料代として1家族あたり）
学生無料（学生証提示）

☆ 懇親会費：1000円以内（茶話会の予定）その後は各自金沢の夜をお楽しみ下さい。

【発表者の方へ】

☆ 発表者は会場内のスタッフまで事前にパワーポイントファイルをお預けください。
（会場内PCのディスクにコピーし、現物はその場でご返却します）。

☆ ご自身のPCをお使いになりたい方も利用可能（Windows用のVGAケーブルは用意しますが、とくにMacの方はVGAアダプタをご持参ください）。

☆ 映写確認は直接会場内で行ないます。

☆ 発表予定時刻の前の演題になりましたら、次演者席にご着席ください。

☆ 発表時間は質疑応答と合わせて12分です。進行にご協力いただくとともに、2～3分程度の議論ができるようご配慮ください。

☆ 開始8分に1回、10分に2回（講演終了目安）、12分に3回（発表終了）、ベルを鳴らします。

☆ 当日配付資料がある場合、印刷・配布については発表者の責任でご対応ください。

【懇親会】 17:15～

☆ 同会場3階セミナールームBで茶話会の形で開催します。ご参加ください。

開会の挨拶 10:00～10:02 大会長：志村恵（金沢大学）

一般演題（1）

（座長：未定）

・ 10:03～10:15

【演題1】「日本人 GWAS による臨床検査値予測モデルの一卵性双生児を用いた検証」

谷口純平¹、渡邊幹夫^{1,2}、増田達郎³、岩谷良則^{1,2}、大阪ツインリサーチグループ²、岡田随象³（¹大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体情報科学講座、²大阪大学大学院医学系研究科ツインリサーチセンター、³大阪大学大学院医学系研究科遺伝統計学研究室）

・ 10:15～10:27

【演題2】「成人女性双生児の年齢別 BMI の遺伝率」

野田侑^{1,2}、本多智佳¹、酒井規夫^{1,2}、磯博康²、大阪ツインリサーチグループ（¹大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター、²大阪大学大学院医学系研究科）

・ 10:27～10:39

【演題3】「日本人双生児の朝型-夜型について」

富澤理恵¹、本多智佳¹、大阪ツインリサーチグループ¹、安藤寿康²（¹大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター、²慶応義塾大学文学部）

一般演題（2）

（座長：未定）

・ 10:40～10:52

【演題4】「腫瘍マーカーにおける遺伝と環境の影響について」

（西村夏彦¹、本多智佳²、富澤理恵²、大阪ツインリサーチグループ²、本田知之³（¹大阪大学医学部医学科²、大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター、³大阪大学大学院医学系研究科ウイルス学）

・ 10:52～11:04

【演題5】「家庭の教育環境・学習状況と学業成績に関わる親の社会経済的格差と遺伝要因の影響」

安藤寿康（慶應義塾大学）

・ 11:04～11:16

【演題6】「多胎を妊娠中から育児中の養育者に対する不安抑うつ傾向に関する研究

～多胎向けファミリー教室に関する WEB アンケート調査から～」

高原恵子¹、梅野充²、稲垣智衣¹、中西杏奈¹、舘山美樹¹、豊田美衣¹、

本西奈津子¹、溝部茉莉¹（¹ツインズエイド～多胎支援プロジェクト～、²医療法人
社団アパクリニック）

・ 11:16～11:28

【演題 7】「初めてふたごを育てる父親が捉えた育児の現実とジレンマ」

鈴木朋子¹、佐々木裕子¹、太田ひろみ¹、場家美沙紀¹、山内亮子¹、大野あずさ²、
佐藤有紗³（¹杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻(多摩多胎ネット)、
²中野鷺ノ宮雲母保育園、³ 東京医科大学病院）

奨励賞受賞講演 11:30～12:00

「首都圏ふたごプロジェクトと私の 10 年」野寄 茉莉（弘前大学教育学部講師）

==== （12:00～13:00 昼食休憩 幹事会）====

==== （13:00～13:20 総会）=====

特別講演 13:30～14:15

「遺伝子編集時代の倫理」柴田正良（金沢大学副学長・理事）

一般演題（3）

（座長：未定）

・ 14:20～14:32

【演題 8】「多胎家庭の出産・育児に向けた情報提供、支援のあり方についての研究

～多胎向けファミリー教室に関する WEB アンケート調査から～

稲垣智衣・高原恵子・中西杏奈・館山美樹・豊田美衣・本西奈津子・溝部茉莉（ツイ
ンズエイド～多胎支援プロジェクト～）

・ 14:32～14:44

【演題 9】「小学生までの多胎育児に対する支援について ―母親へのアンケート結果より―

廣瀬英子・田中公子・牧真理子・増田麻美・ボイル由美子・杉浦祐子・天羽幸子（ツ
インマザーズクラブ）

・ 14:44～14:56

【演題 10】「双子家族を対象とした妊娠期から地域とつながる出産準備教室」

藤井美穂子・石田弘子（和洋女子大学）

・ 14:56～15:08

【演題 11】「多胎児用母子健康手帳のニーズと有用性に関する質問紙調査の結果：第2報」

松葉敬文^{1、11}、金森聖美^{2、8}、山岸和美^{3、8}、糸井川誠子^{4、8、11}、高山ゆき子^{5、8}、天羽千恵子^{6、8、11}、中村由美子^{7、8}、彦聖美^{8、9}、大木 秀一^{3、8、10、11}（¹岐阜聖徳学園大学、²ハッピーキッズ旭川支部、³NPO 法人いしかわ多胎ネット、⁴ NPO 法人ぎふ多胎ネット、⁵しずおか多胎ネット、⁶ひょうご多胎ネット、⁷双子・三つ子サークルグリーンピース、⁸ふたご手帖プロジェクト、⁹金城大学、¹⁰石川県立看護大学、¹¹一般社団法人日本多胎支援協会）

大木秀一教授追悼シンポジウム：『多胎家庭支援の諸相』 15:15～16:35

登壇者（予定）：布施晴美（十文字学園女子大学）、太田ひろみ（杏林大学）、伊藤節子（東京都荒川区子育て支援課）、糸井川誠子（ぎふ多胎ネット）、川上由枝（認定 NPO 法人おやこの広場あさがお）

司会：志村恵（金沢大学）

閉会の挨拶 16:35～16:45 次期大会長

☆ お問い合わせ先

メールアドレス：mshimura@staff.kanazawa-u.ac.jp（志村恵）

☆ 会場へのアクセス（地図等）



【JR 金沢駅から】

JR 金沢駅バスターミナル

兼六園口（東口）3、6、8、9、10、11 番、金沢港口（西口）5 番乗り場よりバスにて「香林坊（アトリオ前）」下車（所要約 10 分）、徒歩約 5 分

【小松空港から】

小松空港リムジンバスで金沢駅まで約 40 分。「金沢駅西口」にて下車。

【北陸自動車道から】

金沢西インターより車で約 20 分、または金沢東インターより車で約 20 分

学会事務局の転移のお知らせ

事務局が移転しました。

※お問い合わせは学会ホームページのフォームからお願いいたします。



編集後記



みなさまお元気でご活躍のことと存じます。この 66 号では、長年にわたり本学会および我が国の双生児研究に多大な貢献をしてくださりました大木秀一先生のご逝去にあたり安藤寿康会長からの御挨拶、第 34 回学術講演会のご案内を中心に編集いたしました。第 34 回学術講演会が例年より 2 週間ほど早く開催されるため、ニュースレターも例年より早い時期にお送りしています。今後、国際雑誌、国際学会などの抄録などをお寄せいただけますと幸いです。これまでの会員のみなさまのご協力に感謝しますとともに、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

編集委員：廣瀬英子（上智大学）・福島昌子（東京大学教育学部附属中等学校）